

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 106

学校名・団体名	松山市立椿小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	地域と学校を架橋するフォト俳句の創作と鑑賞

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 実施に到るまでの経緯

松山市は、正岡子規や夏目漱石のゆかりの地であり、俳句を中心とした文学関連の取組が盛んに行われている。本校区でも、地域の俳句グループの働きかけで、全校児童が俳句活動に取り組み、通学路には小学生から大人まで様々な作品が掲げられているなど、俳句文化が根付いている。

また、近年、スマートフォン等の普及に伴い、映像と言葉等を組み合わせたマルチモーダル・テキストによるコミュニケーションが日常的に行われるようになってきた。これからの情報社会を生きる子どもたちにとって、マルチモーダル・テキストの特質を生かした表現力は必要不可欠なスキルである。

そこで、俳句と写真を組み合わせたフォト俳句の創作・鑑賞活動を通して、マルチモーダル・テキストの特質を生かした表現力を育もうと考えた。さらに、地域文化である俳句を題材にしたり、地域人材を活用したりするフォト俳句が地域と学校を架橋し、関係性を深める一助になりうると考えた。

2 活動内容

(1) 地域の俳人による俳句教室

- ① 日時・場所 平成30年10月4日（木） 9:30～11:15・体育館
- ② 参加児童 6年生（150名）
- ③ 活動内容
 - ・ 地域の俳人3名を講師に招き、6年生を対象とした俳句教室を開催した。
 - ・ 各学級の代表作品を決定した。（計5作品）

(2) フォト俳句作成

- ① 時期 10月中旬～11月上旬
- ② 参加児童 3年生（158名）
- ③ 活動内容
 - ・ 6年生が創作した代表5作品に合う写真を撮影した。
 - ・ タブレット端末を活用し写真と俳句を組み合わせ、フォト俳句を制作した。（写真1）
 - ・ クラス毎に、6年生の代表5作品に対するフォト俳句を1作品ずつ選出した。



〈写真1 児童が作成したフォト俳句〉

(3) お気に入りフォト俳句投票

① 日時 11月中旬

② 参加児童 1・2・4・5・6年生及び教員

③ 活動内容

- ・ 3年生が制作したフォト俳句25作品（5作品×5学級）に対する投票を行い、俳句の種類ごとに代表フォト俳句を決定した。（計5作品）

(4) フォト俳句鑑賞会

① 日時・場所 平成30年11月27日（火）9:30～10:30・体育館

② 参加者 全校児童・保護者・地域の方々・地域の俳句団体の方々

③ 活動内容

- ・ 投票により選ばれた5つの作品の鑑賞会を行う。（写真2）
- ・ 地域の俳人や俳句団体の方をコーディネーター及びコメントーターとして招き、全校児童や参加者で5つのフォト俳句の良さを伝え合う。
- ・ 一番橋小学校らしい作品を参加者で決定する。



<写真2 フォト俳句鑑賞会の様子>

(5) 俳句の生活化

- 毎月、全校児童が俳句を創作する。各学年から1作品「橋俳句大賞」として全校表彰を行う。また、俳句手帳を3年生以上全員に配布し、毎月創作した俳句や家庭で思い浮かんだ俳句を記録する。

(6) アンケートによる児童の意識調査

3年生及び6年生児童にフォト俳句の創作・鑑賞活動に関する事前・事後の意識調査を4件法で実施した。フォト俳句集会後に全校児童に対しても意識調査を4件法で実施した。また、俳句手帳に関する意識調査も実施した。

3 子どもたちへの効果

(1) 俳句教室の教育効果について

俳句教室後のアンケートで、6年生の72%が「いい言葉を見付けることができた」、94%が「俳句の作り方が分かった」と感じていることが分かった。地域の俳人が指導を行うことによって、児童の俳句の作り方に関する知識・理解が深まり、より言葉を吟味しながら俳句創作を行うことができたと考える。また、82%の児童が「前よりもよい作品ができた」と感じており、俳句作りへの自信を深める活動になった。

(2) フォト俳句の創作による教育効果について

意識調査から3年生児童の88%が6年生の俳句に合う写真を考えながら撮影していることが分かった。また、80%が「写真撮影を通して作者の気持ちがよく分かるようになった」と感じていることから、3年生児童は、写真撮影を通して句意をより深く読み取ろうとしていたと考えられる。フォト俳句の創作場面では、文字の大きさ・色・フォントや配置等を工夫し、デザイン面からの表現効果を工夫する姿が見られた。

(3) フォト俳句鑑賞活動の教育効果について

事前の意識調査では、俳句への好感をもっている6年生児童は38%であった。しかし、俳句教室終了後59%、フォト俳句鑑賞会后67%と好感度が向上していった。また、3年生児童も活動前後で、好感度が78%から87%と向上した。作品のよさを見付けることができるという質問を事前・事後を比較すると、3年生は、69%から91%へ、6年生は48%から79%へ数値が向上していることも分かった。1・2年生も85%の児童がフォト俳句鑑賞会で作品のよさを見付けたと考えていることが分かった。俳句に組み合わせた写真が個人の知識や体験の量を補完し、低学年の児童でも句意を理解することができたと考える。教職員からも地域人材及び地域を交えたフォト俳句鑑賞会は肯定的な評価を受けている。さらに、俳句手帳の活用が俳句への関心や創作意欲を高めることに寄与していることが意識調査から示唆された。

今年度の活動を通して、児童の俳句への好感度や、俳句の作り方に関する知識・理解等を高めることができたと考える。来年度以降もフォト俳句の創作・鑑賞活動を継続して実施し、俳句に対する親和性を高め、映像と言葉を組み合わせたマルチモーダル・テキストの特質を生かした表現力を児童に育てていきたい。